

解答はすべて(その八)の解答用紙に書きなさい。

来年一杯で廃校になってしまうと聞いた私は、大木、原、野田、西田とともに、三十年ぶりに長崎にある母校の(注1)N高女を訪れることにした。次の文章を読み、後の問に答えなさい。

講堂の入口に立った瞬間、私たち五人は雑談を止めた。それぞれが、その場に釘づけになって、立ちすくんだ。講堂には何も無い。式や行事の日に、私たち生徒が坐った木の長椅子も、細長い机もない。ただ一脚、背もたれが折れて、使いものにならない長椅子が、講堂の真ん中に置いてある。

舞台の幕も取りはずされて、白い(注2)胡粉の壁が、あらわに見えている。ピアノも、式次第を書きしるす黒板も、道具類は、運び出されてしまって、艶のない、ささくれた床に、乾いた雑巾が一つ、捨ててある。色あいも、十センチメートル巾の板目も、三十年前そのままの様子で、目の前にある。そして乳色のアクリル板をしたシャンリアも、当時のままである。

講堂は、明るく、ひっそりしていた。悲しげなる、と原がつぶやいた。追悼会と私もつぶやいた。大木と野田が、無言でつなずいた。幕をはきとられて裸になってしまっている舞台に向かって、私は黙禱をした。

卒業以来、私ははじめて講堂を見る。入口に立った時に私を釘づけにした思いは、音楽会でも卒業式でもない終戦の年の十月に行われた原爆で死亡した生徒や先生たちの追悼会である。私が無言の祈りを捧げたのは、その日の友人たちの霊に対してである。大木たちも、同じ思いだろう。特に原と大木には、浦上の兵器工場で被爆した重態の体を、この講堂の床に横たえた思い出がある。原も大木も傷は癒えて、生き残ったが、何十人かの女学生たちは、先生や仲間たちにみとられてこの床の上で死んでいった。生徒数千三、四百人のうち、三百名近い死者が、八月九日から十月の追悼会までに数えられていた。浦上方面の軍需工場に動員されて即死した者、自宅でもはつこつかした者、さまざまである。和紙に、ウモウモで書かれた生徒たちの氏名は胡粉の壁の端から端まで、四、五段に分けて貼ってあった。

クラス毎に、担任教師が生徒たちの名前を読みあげた。担任教師が被爆死しているクラスは、同じ学年の教師が、教え子たちの名を代わって呼んだ。読みあげられる一人一人の名前に、生き残った生徒たちの間から、どよめきが起こる。そのうち、どよめきは静まって、私たちは気ぬけた者のように[ ]を落として、長椅子に坐っていた。三方の壁ぎわには、死亡した生徒たちの父母が坐っていた。父母たちは、追悼会が始まる前から涙ぐんでいた。涙はおえつに変わって、生徒が坐っている中央に向かって寄せてくる。【 A 】、とつぶやいた原の言葉は、各人の胸よみがえった、あの日の想いを、率直に言い表していた。私は講堂に入った。そして中庭に面したまどぐへに歩いて行った。西陽がさすまどを背にして、改めて講堂を眺めた。西田と大木が、寄って来た。

西田は腰の低いまどに寄りかかりながら、「原爆の話になると、弱いだよ」と言った。【 B 】の一言で、私たちが何を考えているのか、勿論西田にもわかっていて、西田は、被爆者ではない。私と同じように転校生である。小学校から入学試験を受けて、選ばれて入学した、はえぬきのN高女の生徒ではない。N高女の生徒たちは、入学試験で選抜された、という評価に対して誇りを持っている。だから、彼女らの転校生に対する評価は、同じN高女生であつても低い。しかし、同じ転校生でも西田と私とでは、また微妙な差があつた。

私は昭和二十年の三月に、N高女に転入している。そして八月九日、動員中に被爆した。西田が転校して来たのは、終戦の年の十月、追悼会の日からである。被爆したか、しないかの差は、そのまま、はえぬきの大木たちとの結びつきにまで、かかわってきていた。

西田が、弱い、というのは結びつき方で、弱さの原因は被爆したかしないかにある、と西田は言った。大木が、そんな事のあるもんね、被爆は、せん方がよかに決まるとるやかね、と笑って言った。西田は、そうじゃないのよ、いい、わるいじゃなくって、心情的にそうありたい、と思つたよ、と聞いた。

「例えばね、あなたもわたしも転校生だから長崎弁をつまぐ使えない、無理に使えば、ギクシャクときこちない、そのきこちなさよ」わかるでしょう、と私に言った。

いまだつてそうよ、と西田が、言葉を続けた。「あなたたち四人は、講堂の入口に立った瞬間、泣き出しそうな顔をした、あの時、あなたたちが考えたことは、追悼会のことでしょう。わたしは、そうじゃないもの」西田の脳裏に浮かんだ情景は、転校早々に行われた全校生徒の弁論大会だ、と聞いた。

覚えている？ と西田が私に聞いた。その頃、私は原爆症で発熱が続いており、正規の授業がない日は、なるべく休むようにしていた。多分、弁論大会の当日も休んでいたのだろう。記憶になかった。大

受検番号

木が、つわあ恥ずかしがあ、と少女のように、両手で顔をかくした。

原と野田が近寄って来て、なん？ と聞いた。

弁論大会は、生徒全員に各人の工<sup>しゅちよう</sup>を書かせ、クラスから一名、優秀な作品を選んだ。その選ばれた者が、クラス代表として講堂の舞台上で、意見を発表したらしい。西田も大木もおのおのクラス代表に才<sup>せんしゅつ</sup>され、優勝を競った仲らしかった。

テーマは西田が「婦人参政権について」、大木が「婦人と職業」。大木が恥ずかしい、と言ったのは、女性を、【  
C】から解放しよう、といった調子の、威勢のいい婦人と職業論だったかららしい。言いあてて、いまだに産む作業を知らず、と大木は道化<sup>どけ</sup>て言った。東京の女子大を卒業した大木は、長崎に帰って来て、中学校の教師を職業として選んだ。それから今日まで、何となく、独身生活を続けている。いつか結婚しよう、と待ちながら、とうとう、四十歳を過ぎてしまった、と大木は言った。

「だけど、女が一人で生きていくには、公務員が最高じゃないの」と西田が言った。

「そう、老後の恩給もつくし、よかでしたい」と野田も言い、うちは、ご亭主<sup>ごていしゅ</sup>が死ねば、その場でアウトさ、と首をくくる真似をした。大木が表情を曇らせて、そつでもなかよ、と言った。

最近、長崎県では離島の教育問題が注目されてきている。離島を多く持つ長崎県では、常に懸案<sup>けんあん</sup>になっている問題点だが、大木にかかわりが出てくるのは、最も個人的な、離島赴任<sup>しゆにん</sup>の問題である。そして、その可能性が、大木の場合には大きいという。独身であるのも赴任の条件の一つになるが、二十年を越える教師生活の中で、まだ長崎市から外部に出たことがない。現在まで、転任は市内の中学校に限られてきた。これは、離島の多い長崎県の教師にとっては珍しいことだ。しかし、来春の異動には、確実に離島赴任が命じられるだろう。大木は、赴任を嫌っているのではない。大木が気がかりなのは、原爆症の再発である。

被爆直後、生徒死亡者名が校門に張り出された時、五十音順の真つ先に、大木の姓名<sup>せいめい</sup>が書いてあった。私たちは追悼会の日まで、大木は被爆死したものだ、と思っていた。背中や腕<sup>うで</sup>にガラス片がささった大木は、出血がひどく、講堂で力<sup>か</sup>かんごを受けながら、意識がなくなることがあった。引き取りに来た両親に抱かれて、大木は帰宅したが、その姿から、死亡説が出たらしかつた。現在は、一応健康にみえるが、不発<sup>ふはつ</sup>弾を抱いているようなものである。もうこの年だし、死んでもよかばつてん、いざとなれば、やっぱり怖ろしかつさ、と大木が言った。島にも医師はいるが、原爆症が出た場合、大木は、私もだが、長崎市にある原爆病院に入院したい、という希望がある。原爆症にかかわらず、何らかの病気ににかつたら、原爆症を考慮<sup>こうりょ</sup>しながら治療<sup>ちりょう</sup>が受けられる、原爆病院に入院したい、と思っている。できるならば、原爆病院に近い市が、町で生活をしていたい、とも思っている。大木の不安は、原爆病院から海をくたてて離れることにある。しかし、被爆の前歴は、赴任拒否<sup>きよひ</sup>の理由にはならない。仮に受け入れられるならば、長崎県の教師たちは、それぞれが、原爆に関連を持っているだろう。

離島に行く教師は、いなくなるだろう。が、大木が躊躇<sup>ちゆうちよ</sup>する気持ちは、同じ被爆者である私には理解できた。

(林京子「空罐」一部改めたところがある)

(注1) 高女... 旧制の高等女学校の略称。修業年限は四、五年。

(注2) 胡粉... 白色の塗料。

(一) 太字部アゝカのひらがなを漢字に直しなさい。

ア きゅつじよう イ はつこつか ウ もつひつ エ しゅちよう オ せんしゅつ

カ かんご

(二) 傍線部「私たち五人は雑談を止めた。」とあるが、その理由としてもっとも適切なものを次のアゝオの中から選び、記号で答えなさい。

ア 三十年前に使っていた長椅子や机などもなくなっていることで、自分たちのことも忘れられたように五人全員が感じたから。

イ 西田と大木は三十年前にこの講堂で開かれた弁論大会のことを、他の三人は追悼会のことを思い出し、胸が詰まったから。

ウ 西田以外の四人は三十年前の追悼会のことを、西田は弁論大会のことを思い出して、胸にせまるものがあつたから。

受検番号

エ はえぬきのN高女生だった三人は、当時持っていた誇りを思い出し、転校生の西田と私は、三人に対するひげめを瞬時に感じたから。

オ 大木は講堂の床に重態の体を横たえたことを思い出し、他の四人は大木への配慮から言葉をひかえよつと思つたから。

(三) 傍線部 「黙禱」とあるが、これと同じ意味の表現を本文より五字以内で抜き出しなさい。

(四) 傍線部 「和紙にもうひつで書かれた生徒たちの氏名」とあるが、それはどんな生徒たちの氏名だったのか。解答欄にあてはまる形で二十字以上二十五字以内で具体的に書きなさい。(句読点を含む)

【 】生徒たちの氏名。

(五) に入る言葉としてもっとも適切なものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 目 イ 頭 ウ 波 エ 肩 オ 声

(六) 空欄【 A 】～【 C 】には、それぞれ本文の言葉が入る。ふさわしい言葉を六字以内で抜き出しなさい。(句読点を含む)

(七) 傍線部 「原爆の話になると、弱いよ」という西田の言葉を次のような形で説明しなさい。ただし、解答欄の【 1 】【 2 】には、それぞれ十五字以内(句読点を含む)の言葉を考えて入れ、その際「弱い(弱さ)」を使ってはいけません。

【 1 】ので、原爆の話になると、【 2 】を感じてしまうという意味。

(八) 傍線部 「同じ転校生でも西田と私とでは、また微妙な差があった」の説明として、もっとも適切なものを次のア～オの中から選び、記号で答えなさい。

ア 長崎弁をつまぐ使えない点では同じだが、それを恥ずかしく思っているかいないかで違いがある。

イ 長崎弁をつまぐ使えない点では同じだが、高女生の頃から参政権に関心があったかどうかで違いがある。

ウ はえぬきのN高女生でない点では同じだが、N高女への転入を誇りに思っているかどうかで違いがある。

エ 入学試験で選抜されていない点では同じだが、被爆したかしないかという点で違いがある。

オ 入学試験で選抜されていない点では同じだが、弁論大会に出場したかどうかという点で違いがある。

(九) 傍線部 「いい、わるい」とあるが、

( ) 次のア～オの中から「いい、わるい」の意味で使われる熟語を二つ選び、記号で答えなさい。

ア 好悪 イ 善悪 ウ 是非 エ 過小 オ 多少

( ) ( ) のア～オの中から、他の四つと、熟語の成り立ちが異なるものを一つ選び、記号で答えなさい。

(十) 傍線部 「多分、弁論大会の当日も休んでいたのだろう」とあるが、それがわかる文末表現を六字以内で抜き出しなさい。(句読点を含む)

(十一) 傍線部 「大木が躊躇する気持ち」とあるが、大木は、なぜ、どんなことに躊躇するのか。解答欄にあてはまる形で、わかりやすく五十字以内で説明しなさい。(句読点を含む)

【 】ことに躊躇する。

(十二) 原爆の被害が広範囲に及んでいることをうかがわせる表現を本文から三十字程度で抜き出しなさい。(句読点を含む)

受検番号

次の文章を読んで後の問に答えなさい。

(注1)「そうだ 京都、行こう。」

その簡潔な言葉に美しい京都の映像は四季を問わずじっくりとなじみ人々を古都に誘う。そして「トンネルを抜けたらそこは京都であった。建物は一樣に低く空は平坦に広がった」。X 古都の風景は平成の世で第一線を走る新幹線に意外なほどよく似合う。

実際この名コピーの「京都」を京都以外のどこに置き換えてもあまりぴんとこない。

「東京に行こう」と言われたら、あ、そうと気安く返事もできるが「そうだ 東京、行こう」と言われたら理由を問わずにはいられない。ミュージシャン志望が全国進出を志す(注2)ローカル芸人が、とにかくただの観光旅行ではなくもつと精神的にA 切迫した状況を思わせる。同じように「そうだ 長野、行こう」「そうだ 広島、行こう」「そうだ 埼玉、行こう」、やっぱり何か特殊な事情を思わせる。でも「そうだ 京都、行こう」には個人的な理由も説明もいらない。だれがだれに言っても納得するだけの説得力と威厳に満ちあふれ、ア どつどつと、またあつげらかんとそこにいる。

ただの世界的な観光名所としての京都ならだれにとつても「行こう」でいい。ニホンの人に「そうだ、行こう」と言わせる京都。Y いったい京都つて何なんだろう。

東京で暮らす友人の京都のイメージがあまりにガイドブック的で驚いたことがあった。家の玄関をあけたらお寺がある。石畳の道を歩けば竹林と寺と町家の小路。「よーじや」のあぶらとり紙を使い、「祇園辻利」の抹茶パフェを食べている。

たしかに家の斜め前にはお寺があり、河原町の繁華街を歩いてずっと坂を上がつていけば清水の舞台である。しかしその途中には寺も町家もあるが普通の店も会社もたくさんある。そして実際路地を歩いて一番実感するのは狭い道を結構なスピードを出して走るクルマの多さである。

ガイドブックで京都の市街地はまるでクルマ全面進入禁止の(注3)ベニスである。暮盤の目状の狭い路地で人々はゆつたりと街歩きを楽しんでいる。しかし、どんな時間のどの道であれタクシーに出会わない日は一日もなく、路地のサイズと移動距離に全く適応しない高級車やワゴン車が日中には列をなして信号を待っている。ふと運転席を見れば、それは着物を上品に着こなした京都生まれ京都育ちの奥様であったり、(注4)近藤勇顔のおじさんであったりする。そのクルマと歩行者で混雑した道をさらに高校生の自転車や袈裟姿のお坊さんのバイクが走り去つてゆく。

町家作りの老舗の専門店近くには親子丼の「なか卯」があり、かんざし店から数分もしないところにカフェの「スターバックス」がある。(注5)花街には競馬新聞を持つたおじさんが集結している。

京都が純然と京都たり得る場所は実は大変限られており、その空間が現代日常都会生活と隣り合わせの場所である、という点で京都は極めてB 稀有な街である。

地方の【 a 】は【 b 】と離れたイナカの中でも極めつけのイナカであったりするので、周囲は閑散として【 c 】がより叙情的であるために一役買っているが、京都の場合はにぎやかな【往来】と【 d 】と【 e 】と通勤場所が狭い場所に集中して混在している。【 f 】でありながら【 g 】である楽しみは、【 h 】なのに【 i 】という悲哀と背中合わせである。

その新旧混然一体化こそが京都らしいといえはそうであるが、今は新の方が俄然優勢である。現役で生きているものより強いものはない。

京都は形骸化した歴史と伝統を今に残す街である。そもそも形骸化しないような文化は一つもないわけだが京都はその規模が時間的にも量的にも半端じゃなく偉大であった。

祇園祭は今もつつがなく毎年繰り広げられているが、京都で暮らす者にとつてこれは既に実体のない伝統文化の維持作業である。(注6)鉾を抱えた町内会は準備と片付けに毎年てんやわんやであるが、大半の人にとつては四条通一帯が車両通行止めになり屋台が出て浴衣を着て歩くだけの日である。鉾より

受検番号

もずっと高いビルの「まど」の向こう側でみんな仕事をしている。全国各地から集まったカメラマンがカメラを構え全国に写真が配信されテレビ中継される。その映像の中にあるのはたしかに「京都」である。

「そつだ 京都、行こう。」と思つて集まつてくる人々は駅から目的地までの大混雑したバスにもタクシーの大渋滞にも京都を見ることはないだろう。京都はイメージの京都であり、切り取られた寺であり京料理であり舞妓さんである。

新幹線と京都が意外によく似合う理由もそこにある。新幹線は乗り物でなく乗停車の時間と駅だけが存在する移動装置である。だから人々は新幹線に乗っている間は弁当を食べ本を読み昼寝をし、なるべく移動に関しては意識不明状態であることに「つと」める。どこを走っているか、まどの外に何があるのか、とりわけ新幹線に乗っていると考えないで済む。走っている道と時間があまりに現実離れしており実感を伴わないほど高速であり長距離だからである。

つとつと寝ているうちに数時間で何百キロも離れた場所にいる。ただ目的地がそこにある。そんな非現実的な移動から目が覚めたら、そこに京都はある。

「そつだ 京都、行こう。」の京都はだれもが頭の中で知っている京都であり写真の京都であり、そこには個人的な差異も時間的揺れもない。「東京」にも「長野」にも「長崎」にもない、安定した時間と固定化した空間イメージ。「そつだ 京都」と言われたら「そつだそつだ」とみんながうなずける京都があり、「京都、行こう。」は、みんなが行きたい行きたいと思つているからこそ共感できる「えいだん」なのである。

明治創業の京料理店でお盆持ちとして働いていたことがある。シーズンには観光バスが何台も乗りつけ、大広間では結婚式の披露宴が行われ、一番安い昼の食事でも五千円する。十分以内に着物に着替えホールで整列して一日が始まる。厳しいきまりと掃除が隅々まで徹底して行き届いた職場は同僚も複雑な身の上事情を抱えた人が多かった。

座敷に掃除機をかけ、木箱のつまよつじをそろえる。トイレットペーパーが半分以下になれば新しいものに取り替え、半分以下のトイレットペーパーは従業員トイレに回す。お客が帰れば座敷の座布団を一斉に裏に返す。白米の上におかずの上に落ちていないものは目皿にして確認する。京の老舗の演出のために、お客さんの見えないところで女将以下一丸となつて奔走していた。

私は(注7) シシオドシ係であった。奥の座敷から見える庭にシシオドシがあり、その水の栓はふだんは閉まっている。節水である。そこへ予約のお客が見え、高級着物を着た若女将がお迎えしたらすぐに裏口から庭に出る。竹林の中を草履で走りシシオドシの竹筒の裏に隠された水道の蛇口をひねる。そしてお客様が帰ると再びシシオドシの栓を開める。庭の木々に埋もれたシシオドシをお客様はほとんど見ちゃいないし、磨き上げられた防音サツシの向こうでカーンと音がしても全然聞こえない。そして、お客様が帰りお盆を調理場の流しに下げると、美しく花の形に盛られた野菜はたいてい残してあつた。

体裁を整え演出する京都に既に実体はなく、受け取る側も演出する側も京都が持つてきた歴史や文化とは遠い平成を生きている。でも、庭にシシオドシがあるのも、お盆のおかずが花の形をしているのもやっぱり「京都」だからである。

京都がずっと京都であることをみんなが望んでいる。実体はなくともそつあつてほしいことをみんなが思つていることでそれが既に実体である。

(注8) ハツ橋の袋を下げて、闇に沈んですっかり形をなくした京都から再び新幹線に乗る。時間も空間も一足飛びに暗闇を疾走する新幹線の車中でやっぱり人は京都に来てよかったと思つただろう。その「京都」は既に、今日間近に見て歩いて渋滞でイライラした京都ではない。来る前にその人が思つていたあの「京都」である。そして季節がめぐりまたこつ思つ。

「そつだ 京都、行こう。」

京都は、その失われし歴史と文化が偉大であるがゆえ、あまりに巨大な空洞をカタチとして残してしまった。その空洞を埋めるものはなく中身が空洞だからカタチはカタチを変えずにいつまでも残つていられる。実体がずいぶん存在感を放ち、人々の頭の中でより生き生きと「くんにん」する。

「そつだ 京都、行こう。」。静かでしたたかな「京都」への熱い思いは色あせることなく、京都はやっぱりそこにある。

(鍋倉紀子「そつだつたのが、京都」一部改めたところがある)

受検番号

- (注1)「そつだ 京都、行こう」... 東海道新幹線を路線に持つJR東海の京都観光キャンペーンのキヤッチコピー。  
 関東地方や中部地方などではテレビCMが放送されたり、ポスターが貼られたりしている。
- (注2)ローカル... 特定の地方の。(注3)ベニス... イタリアの都市。
- (注4)近藤勇... 幕末、新撰組の局長として京都で活躍した武士。
- (注5)花街... 芸者屋の集まっている街。(注6)鉦... 山車。祭の際、人々が町中を練り歩かせるもの。
- (注7)シシオドシ... 流水を竹筒に導き、水がたまるとその重みで筒が傾いて水が流れ出し、軽くなって跳ね返る時に石を打って音を出すようにしたもの。(注8)ハツ橋... 京都名物の和菓子。

(一) **太字部** ア、オのひらがなを漢字に直しなさい。

ア どつどつ(と) イ まど ウ つと(める) エ えいだん オ くんりん

(二) **太字部** A、Cの本文中における意味としてもっとも適切なものをそれぞれア、エの中から一つ選び記号で答えなさい。

A 「切迫した」

ア 期日が近づいた イ 逃げ場のない状態になった ウ 呼吸が速くなった エ 精神が荒れ果てた

B 「稀有な」

ア 不思議な イ けしからぬ ウ めつたにない エ 他とは一線を画した

C 「往来」

ア 道路 イ 街の様子 ウ 行つてから帰ってくる場所 エ まちなか

(三) 傍線部 「実際この名コピーの「京都」を京都以外のどこに置き換えてもあまりびんとこない」とあるが、それはなぜか。もっとも適切なものを次のア、エの中から一つ選び記号で答えなさい。

ア 京都以外の場所は、多くの人々が「行こう」と思つに値する、日本有数の、あるいは世界的な観光名所とまでは言えないから。

イ 京都以外の場所に「行こう」というのであれば、そう思つた人に特別な事情があるのではないかと感じられる可能性が高いから。

ウ 京都以外の場所には、人が「そつだ」と思いついて行こうとするだけの特殊な事情や、個人的な理由が存在しづらいから。

エ 京都には、多くの人々が「そつだ」と思いつき、そこに行きたいと思わせるであろう説得力があるが、京都以外の場所には、そのような説得力はないから。

(四) 傍線部 「そこにいる」とあるが、「そこにいる」ものは何か。文中から過不足なく抜き出しなさい。

(五) 傍線部 「京都が純然と京都たり得る場所は実は大変限られており、その空間が現代日常都会生活と隣り合わせの場所である」とあるが、

この状態の具体例が示されている連続した段落を探し、最初と最後の五字(句読点を含む)を抜き出しなさい。

この状態を七字で言い換えている部分を、文中から抜き出しなさい。

(六) 空欄 a、i には、「居住地」か「観光地」のいずれかの言葉が入るが、その組み合わせとしてもっとも適切なものを次のア、カの中から一つ選び記号で答えなさい。

- |   |       |       |       |       |       |       |       |       |       |
|---|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| ア | a 観光地 | b 居住地 | c 居住地 | d 居住地 | e 観光地 | f 観光地 | g 観光地 | h 居住地 | i 観光地 |
| イ | a 観光地 | b 居住地 | c 観光地 | d 観光地 | e 居住地 | f 居住地 | g 観光地 | h 観光地 | i 居住地 |
| ウ | a 観光地 | b 居住地 | c 居住地 | d 居住地 | e 観光地 | f 観光地 | g 居住地 | h 居住地 | i 観光地 |
| エ | a 居住地 | b 観光地 | c 観光地 | d 観光地 | e 居住地 | f 観光地 | g 居住地 | h 観光地 | i 居住地 |
| オ | a 居住地 | b 観光地 | c 居住地 | d 居住地 | e 観光地 | f 居住地 | g 観光地 | h 観光地 | i 居住地 |
| カ | a 観光地 | b 居住地 | c 観光地 | d 居住地 | e 居住地 | f 観光地 | g 観光地 | h 居住地 | i 観光地 |

受検番号

(七) 傍線部 「京都」である」とあるが、「京都」とかきかっこがついているのはなぜか。それについて説明した次の文の【 】に入る表現を文中から六字以上十字以内で抜き出しなさい。

この場合の京都は、いわば【 】であることを示すため。

(八) 傍線部 「庭の木々に埋もれたシシオドシをお客様はほとんど見ちゃいないし、磨き上げられた防音サッシの向こうでカコーンと音がしても全然聞こえない。そして、お客様が帰りお盆を調理場の流しに下げると、美しく花の形に盛られた野菜はたいてい残してあった。」とあるが、それはなぜだと筆者は考えているか。次のア～エの中から適切でないものを一つ選び記号で答えなさい。

ア サッシの向こうにあるシシオドシや、花の形に美しく盛られた野菜には、美質的、機能的な意味はほとんどないから。

イ シシオドシを聞くなどということは、店でもてなされる側の人々の日常生活には全く根付いていないことであるから。

ウ たとえ美しく花の形に盛られた野菜が出されたとしても、客はそれを食べて味わうためのものだと認識しないと思われるから。

エ 客がシシオドシの音に耳を傾けたり花の形に盛られた野菜に箸をつけたりすることはないであろうということ、店側も既に了解しているから。

(九) 傍線部 「実体はなくともそうあってほしいことをみなが思っていることでそれが既に実体である」とあるが、それはどうということか。次のア～エの中からもつとも適切なものを一つ選び記号で答えなさい。

ア 京都の歴史や文化は美質的には失われてしまっているが、少なくとも形式としてはそれらが残っていてほしいと多くの人が思っているのが京都という町の特質であるといえる、ということ。

イ 京都という町は時間的にも空間的にも不安定であるが、そのような不安定さを維持することを多くの人々が望んでいるのが、京都という町の特質である、ということ。

ウ 京都は、実は多くの人の想像の上にかろうじて成り立っている危うい存在であるが、皆がそのような京都を望んでいる限り、京都は存在し続けるのである、ということ。

エ 京都は歴史的、文化的に受け継がれてきた「カタチ」を重視する街であり、そのことが京都という町の存在を安定的、固定的なものにしている、ということ。

(十) 二重傍線部X「古都の風景は平成の世で第一線を走る新幹線に意外なほどよく似合う」、二重傍線部Y「いったい京都って何なんだろっ」とあるが、京都、あるいは京都と新幹線の関係についての筆者の分析をまとめた次の文の【 ア 】～【 オ 】には文中から適切な言葉を指定された字数で抜き出し、【 カ 】～【 ケ 】にはあてはまる表現を指定された字数で考えて書きなさい。

京都は【 ア 2字 】や【 イ 2字 】や【 ウ 2字 】を今に残す街であるが、現代の京都において、それらは【 エ 3字 】しており、実際には【 オ 8字 】とかかわるものが優勢である。

にもかかわらず、人々が京都に旅をしようと思つのは【 カ 20字以内 】たいと思つからであり、もてなす側もそれを心得ているので【 キ 30字以内 】。

新幹線は【 ク 10字以内 】ので、走る距離と時間が現実離れしており、そのような側面が【 ケ 10字以内 】という意味で現実離れした京都によく似合うと言える。

(一)	ア		イ		ウ		エ		オ		カ	
(二)												
(三)												
(四)											生徒たちの氏名。	
(五)												
(六)	A				B				C			
(七)	1											
	2											
(八)												
(九)												
(十)												
(十一)											じしに躊躇する。	
(十二)												

(一)	ア		と	イ		ウ		ゆる	エ		オ	
(二)	A			B		C						
(三)												
(四)												
(五)					}							
(六)												
(七)												
(八)				(九)								
(十)	ア		イ		ウ		エ		オ			
	カ											
	キ											
	ク							ケ				

得点	受検番号